

各 位

赤池 誠章

「保守分裂回避、そして自民党を変え、民主党を倒し、道義大国(\*)日本へ」

### ＜私の決断＞

新年に当たり、ご挨拶申し上げます。どう

旧年中は、ご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

昨年、12月20日(火)に自民党本部において、石原幹事長、河村選対局長、竹下亘選対局長代理、党本部関係者、皆川県連幹事長ら県連執行部と会合を持ち、参議院全国比例区支部長をめざして転出をはかる決断を伝えました。これにより、衆議院山梨1区支部長を断念することとなり、苦渋・断腸の思いではありますが、ようやく国政復帰への道筋が定まりましたので、引き続き党のご指導を頂きながら、全力を振り絞って邁進するのみと決意を新たにしましたところ です。

なお、皆様へのご報告の前に、当方が意図しないところで、マスコミ報道がなされたことにつきましては、大変遺憾に存じます。

### ＜保守分裂を回避＞

決断の第一の理由は、何をおいても、保守勢力の分裂危機を回避するためです。

いよいよ今年解散総選挙か、といった話も聞こえてきたなかで、これ以上、山梨の自民党を混乱のままにはできない。ただ、非民主主義的・独裁的な候補擁立を見過ごすこともできない。しかし、やはり、今の民主党政権をそのままにしている、日本そのものが本当に駄目になってしまう…。苦しいジレンマから出した、本当に本当に苦渋の決断です。

### ＜自民党の再興を＞

決断の第二の理由は、なんとか自民党を再興したいとの思いです。

「民主党はだめだけど、自民党もねえ…」と言われ続けています。2年前、自民党は国民からの信頼を失い、総選挙で下野することとなりました。自民党は、そのことを真摯に受け止めなければなりません。しかしながら、今回の山梨の自民党における一連の混迷は、多くの有権者に「自民党はなににも変わっていない」という思いをおこさせる結果となりました。実際、意見が多数よせられました。改めて、自民党は、保守政党、国民政党の原点に立ち戻り、公党にふさわしい公論のある党への自己変革をするべきだという思いを強くした次第です。

私は、5年かかっても、10年かかっても、絶対に山梨から自民党を再興したい。このたびの一連の流れで、固く心に誓いました。私の往生際の悪さは皆様ご存知か

と思います。良い意味で、執念深くこの想いは持ち続けます。ただ、党の再興を実践するに当たっては、現在のような前職という立場では、影響力を持ち得ません。それゆえ、一日も早く国政復帰することを強く望んでおるところです。

## <民主党を打倒し「道義大国(\*)、日本」へ>

決断の第三の理由は、民主党を打倒し、「道義大国(\*)、日本」をめざすためです。

私が郷土山梨で政治活動を始めたきっかけは、腐敗した政治をなんとか立て直したいという、素朴な愛郷心、愛国心からでした。とにかく、先人たちが築き上げたこの素晴らしい日本、そして郷土山梨を、守るべきものは守り、変えるべきものは変えて、しっかり後世に受け継いでいきたい。そう思ってやってきました。

日本という国土に根ざし、土台はしっかりしていても、老朽化して朽ち落ちる寸前の旧家・自民党。見栄えが良い新築の家だけれども、土台がなく、外圧や地震で簡単に倒壊してしまう民主党。私は、日本の歴史にしっかりと根ざした頑丈な土台の上に、新しい家を建てたい。「道義大国(\*)」をめざすことが、私の願いです。そのためにも、今、引くわけにはいかないのです。

そして、今回の山梨での保守分裂の様相を、一番喜んでいるのは民主党です。一昨年、あれほど民主党を追い詰めた山梨で、保守同士が争って自滅するわけですから。民主党とその支持母体の高笑い聞こえてきそうです。戦うべき相手は民主党だということを忘れてはならないのです。

以上が、今回の決断理由です。非常に苦渋の決断でした。しかしながら、私自身が目指すところは決して諦めるものではありません。むしろ、このたびの決断は、絶対諦めないという私の覚悟の決意だとしていただければ幸いです。

この間、後援会を代表して折衝に当たって下さいました天野丈重後援会長、私を激励し続けて下さいました後援会の皆様や支援者の方々には、心より感謝申し上げます。皆様のご支援がなければ、ここまで辿り着くことすらできなかつたと思っております。本当にありがとうございます。また、全国各地、そして海外にも、今までの政策的な取組みをきっかけにご縁をいただいた同志が多くいます。今回その同志からも、本当に沢山の支援や激励を頂きました。誠にありがたく、心から感謝しております。最後に、この苦しい期間を乗切れたのは、支え続けてくれたスタッフの存在があってこそでした。とりわけ、水面下で情報収集や調整に尽力し、各地を飛び回ってくれた秘書には大変な苦勞をかけたと思っています。

ようやく目指すところが定まりました。至らぬ点が多い私ですが、とにかく全力を尽くす覚悟です。皆様方には、引き続きご指導ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます、決意の報告とさせていただきます。

---

(\*)： 稲田朋美会長「伝統と創造の会」設立趣意書より